
たんぽぽ

海亀みるら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たんぽぽ

【コード】

N0136T

【作者名】

海亀みるら

【あらすじ】

空き地に咲いたたんぽぽと、道路に咲いたたんぽぽの話。

初投稿用書き下ろし

1,000文字以内

ちいさな町のちいさな空き地、緑色の鉄フェンスにかこまれた日だまりの中。

太陽の光を体いっぱいにあびて、この春ぼくは黄色い花をさかせた。まわりには、ぼくと同じ黄色い花たちが風にゆられていた。

モンシロチョウのやつがぼくらの間をとびまわり、さかんにみつを吸っている。

ブロロロロロ

けんのんな音を立てて、空き地の前の道路を赤い自動車が通り過ぎた。

そのわだちの中に、うす汚れた花がヨロヨロと揺れていた。

さっきの自動車に踏みつぶされた体を持ち上げて、また太陽の光を浴びようと背筋を伸ばした。

もう彼の花はぼくらのようなきれいな黄色じゃなかった。

もう彼の葉っぱはぼくらのようなきれいな歯並びじゃなかった。

彼の体はあちこちすり切れて、みっともなかった。

でも彼も、もともとはぼくらとおんなじ花だったはず。

生まれおちた場所がほんの1メートルちがっただけで。

たまらず、ぼくは彼に声をかけた。

「ねえ、キミ」

「やあ」

「キミはどうして何度も起き上がるんだい？」

「さて、なんでだろう」

ブロロロロロ

ぼくが話しかけている間にも、今度は青いバイクが彼の上を通っていった。

「ねえ、キミは幸せかい？」

「幸せって？」

「だってキミはそんなに何度も踏み潰されて、めっちゃくちゃにされて、苦しいだろう？」

「そうかな。それでもボクは、元気だよ」

彼は恥ずかしそうにボロボロの体を風に揺らした。

何日も、彼はそうやって車にひかれ続けた。

やがてぼくからも彼も花を閉ざして体を横たえ、綿毛の下で種が熟するのを待った。

そしてつぼみの先端が白い綿毛にすっかり置きかわり、種を飛ばす為に体をピンと伸ばした頃。

ふいに道路の彼がぼくに語りかけた。

「ねえ」

「どうしたんだい？」

「ボクはやっぱり幸せだよ。だって、これからボクの種が風に吹かれてどこへでも行ける」

「そうだね」

彼は誇らしげに、白いあたまを掲げた。

空き地には青いつなぎを着た人間たちが足を踏み入れ、あたりの雑草といっしょにぼくらをむしっては半透明の袋の中に詰め込んでいく。

やがてぼくの体は袋に閉じ込められたまま、トラックの荷台に放り込まれた。

ブ
ロ
ロ
ロ
ロ
ロ

清掃のトラックが空き地の前から走り出した。

「ああ。ぼくもあんなふうに空を飛びたかったなあ」
袋の中から見上げる空を、彼の綿毛が飛んでいった。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0136t/>

たんぽぽ

2011年5月5日14時56分発行